

場面②駿河の国・宇津の山――――

訳13 どんどん進んで行って、駿河の国に着いた。

訳14 宇津の山に着いて、①自分が入ろうとする道はたいそう暗くて細い上に、蔦や楓が茂り、②なんとなく心細く、③思いがけない目に遭うことだ、と思っていると、修行僧が（Xと）出会った。

問一 傍線部①と一致するのは？

ア道が暗くて細かったのは、蔦や楓が茂っていたからだ。

イ道が暗くて細かったのは、蔦や楓が茂っていたせいではない。

問二 傍線部②のように感じた理由は？

ア道が暗くて細かったから。

イ道が暗くて細かった上に蔦や楓が茂っていたから。

訳13 どんどん進んで行って、駿河の国に着いた。

訳14 宇津の山に着いて、<sup>①</sup>自分が入ろうとする道はたいそう暗くて細い上に、蔦や楓が茂り、<sup>②</sup>なんとなく心細く、<sup>③</sup>思いがけない目に遭うことだ、と思っていると、修行僧が（Xと）出会った。

問三 傍線部③「思いがけない目」は次のどちらを指すか。

ア 暗く細い、蔦や楓が茂る道に心細さを感じたこと。

イ 修行者と出会ったこと。

問四 Xに入る人物は？

ア 主人公の妻

イ 主人公の恋人

ウ 役人

エ 修行僧

オ 主人公たち一行

カ 主人公たちとは別の旅行者たち

ここは空白ページです